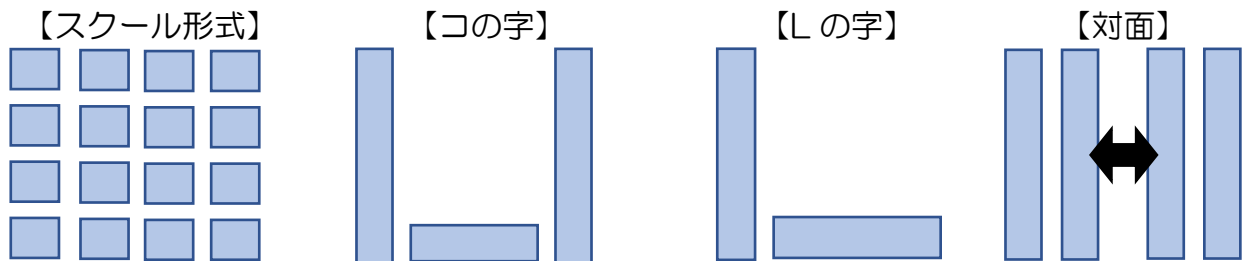


## 場の設定について

「学級会って、必ずコの字に席を動かさないといけないのですか。低学年は、動かすだけで大変なのですよ…」という質問を受けることがあります。結論から言うと、「必ずしもコの字型にする必要はありません」です。コの字型にする目的は何でしょうか。色々理由がありますが、①互いに顔が見える、②フォーマルな雰囲気にする、③特別感を味わわせる、といったこととなります。しかし、低学年が席を動かすのは担任の先生にとって一苦労。また、普段と違う雰囲気に子供が舞い上がってしまうこともあります。なので、低学年では、必ずしも席を動かす必要はありません。司会グループだけを黒板の前に出して、スクール形式で、全員前を向いて学級会を行っても問題はありません。2年生の2学期以降からコの字型を経験ができれば良いのですが、あくまで学級の実態に応じて動かしてください。下図にいくつかの場を紹介します。Lの字型は学級の人数が20名以下で行います。対面型はディベートを行うときによく見ますが、簡単に机を動かさずし、学級会でも問題はありません。高学年であっても時間がない時は、スクール形式で行いましょう。



そして、今回お勧めしたい型が、【実行員の島】を設けての学級会です。いろいろな学級の取組に対して実行委員を立てることがあると思います。学級会で決まったことを実行委員が軸となって進めるのは当然ですが、学級会の中でも実行委員を中心に話し合いを進める型です。この学級会では、下図にもあるように、実行委員をコの字の中心に据えます。今までは、計画委員会という立場が司会グループとなり、集団決定に向かうように、フロアーの意見をまとめて合意形成の中心を担っていましたが、その役割を分けます。実行委員がフロアーの意見を参考にしながら、集団決定に向かう役割とし、司会グループは全体をコーディネートするだけとなります。また、リーダーが「みんなに話し合ってもらいたい」「みんなの意見を聞きたい」「みんなに合意をしてもらい前に進みたい」という意図のもと、提案理由や話し合いの柱を設け、フロアーに伝えます。フロアーから賛成、反対意見をもらいながら、実行委員は何に決定をするかの判断をします。最後に実行委員が、フロアーが納得するような説明や理由を伝え、集団決定をします。「時間内に終わらない」「よくまとめてしょうがない」などの問題も解消されやすくなります。

